

～コロナワクチン副反応～

写真はすべて海外だが日本人でも同じような副反応が起きている。

テレビではよく、ワクチンの副反応で、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等を放送しているが、これらは症状の中でも一番軽症の部類で、重症の症例をテレビで放送すると誰もワクチンを打たなくなってしまうのでテレビで重症については放送しない。

コロナワクチンの副反応は、痙攣など子宮頸がんワクチンの被害者と同じような症状が出ることもある。

副反応はワクチン接種の当日～数日後に出ることが多いが、数週間過ぎてから出ることもある。

ワクチン副反応は、持病や基礎疾患がなくても、ワクチン接種前は健康だった人でも出ることがある。

ワクチン副反応は、いつ・誰が・どんな症状が出るかは全く分からぬ。副反応やアナフィラキシーショックが起きてそのまま亡くなるケースも数多くある。

コロナワクチンはインフルエンザワクチンの250倍危険と言われている。

コロナワクチンを打たなければ、副反応もアナフィラキシーも死亡も何も起きない。

